中学３年　国語科　教材別テスト⑨　「故郷」　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学３年　国語　／　「故郷」（魯迅・竹内好訳）・光村図書『国語３』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。**教科書『国語３』の「故郷」のページを開いたまま**解答します。この作品は、二十年ぶりに故郷へ帰った「私」が家を引き払うまでを**一人称の回想**で語る小説です。**情景描写と心情の照応、記憶と現実の落差、人と人を隔てるもの**、そして最後の**希望**をめぐる思索の四つが読みの柱になります。記述問題を多めにして、「気持ち」「意味」を自分の言葉でまとめる力をみます。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	語句の知識（語彙・対義語・類義語・四字熟語・慣用句・熟語の組み立て）	２点×７＝14点
	三	文法（助詞・助動詞の識別）	１点×16＝16点
思考・判断・表現 50点	四	「故郷」の読解（12問）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　「**れる・られる**」「**ようだ**」「**そうだ**」「**ない**」など、形が同じで働きのちがう語を見分けられるか。

②　冒頭の**荒涼とした冬の風景**が、「私」の心情と重ねられていることに気づけるか（情景描写と心情の照応）。

③　**記憶の中の故郷・少年のルントウ**と、**目の前の故郷・再会したルントウ**との落差をとらえられるか。

④　二人の間にできた「**厚い壁**」が、身分や境遇の差によるものだと説明できるか。

⑤　最後の「**希望**」をめぐる思索（疑いから、歩く人が道をつくるという考えへ）を自分の言葉で書けるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	こうりょう	⑪	残酷
②	ふんいき	⑫	犠牲
③	きょうぐう	⑬	感傷
④	けんきょ	⑭	実感
⑤	へだ（てる）	⑮	努力
⑥	おとろ（えた）	⑯	距離
⑦	そえん	⑰	習慣
⑧	ひんこん	⑱	将来
⑨	した（う）	⑲	乏しい
⑩	なごり	⑳	懐かしい

小計　20点

【注意したい字】

①「荒涼」の「涼」は**さんずい**。にすいの「凉」や、「亮」と書かないこと。②「雰囲気」は「ふいんき」と書く・読む誤りが非常に多い。**ふ・ん・い・き**。④「謙虚」の「謙」はごんべん。「嫌」「兼」と混同しない。⑤「隔てる」⑥「衰えた」⑨「慕う」は送りがなまで必要（「隔る」「衰た」は×）。⑩「名残」は熟字訓で「なごり」。「めいざん」は×。⑯「距離」はどちらも画数が多い。「距」は「巨」、「離」の右側は「隹」。⑲「乏しい」は「とぼしい」。「乏」を「之」と書かない。送りがなは「しい」まで書く。⑳「懐かしい」の「懐」はりっしんべん。送りがな「かしい」まで書く。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**ア**	「荒涼」＝荒れ果てて、もの寂しい様子。冒頭の冬の故郷の描写を言い表すのにぴったりの語で、この作品を読むときのキーワード。
(2)	**ア**	「よそよそしい」＝親しいはずの相手に対して、他人のように距離をとる態度。再会したルントウのふるまいを説明する語。イ「なれなれしい」はほぼ反対の意味。
(3)	**絶望**	希望 ⇔ 絶望。「失望」は「期待が外れてがっかりする」意味なので、対義語としては「絶望」が最も適切。
(4)	**イ**	「境遇」＝その人の置かれている立場・暮らしのありさま。「身の上」が最も近い。ア「境界」は区切り、ウ「境地」は心の状態。
(5)	**無量**	「感慨無量」＝しみじみと感じ入る思いが限りないこと。「感無量」とも言う。「無料」と書く誤りに注意。
(6)	**腹**	「腹を割って話す」＝本心を隠さず打ち明ける。「胸」「腹」「肝」など体の部分を使った慣用句はまとめて覚える。
(7)	**イ**	「貧困」＝「貧しい」と「困る」で**似た意味**の組み合わせ。同じ型は「困難」。ア「高低」は反対の意味、ウ「読書」は「書を読む」で目的、エ「寒風」は修飾の関係。

小計　14点

三　助詞・助動詞の識別　（1点×16＝16点）

番号	――線部	解答	解説（見分け方）
(1)	**呼ばれる**	**ア　受け身**	「友人に」と動作をする相手が示されている。「～によって～される」と言いかえられれば受け身。
(2)	**食べられる**	**イ　可能**	「～することができる」と言いかえられる。
(3)	**思い出される**	**ウ　自発**	「自然に」「ひとりでに」を補えて意味が通る。「思い出される」「感じられる」「しのばれる」など、心の働きを表す語に多い。
(4)	**出られる**	**エ　尊敬**	主語が敬うべき人（校長先生）。「お～になる」と言いかえられる。
(5)	**ようだ**	**ア　推定**	根拠（空が暗い）から判断している。「どうやら」を補える。
(6)	**ようだ**	**イ　比喩**	文中に「まるで」があり、水面を鏡にたとえている。「AはBのようだ」という**たとえ**の形。
(7)	**そうだ**	**ア　様態**	動詞の**連用形**（降り）に付く。「今にも」「いかにも」を補える。

(8)	**そうだ**	**イ　伝聞**	動詞の**終止形**（帰る）に付く。「〜という話だ」と言いかえられる。**接続する形で見分けるのが確実**。
(9)	**ない**	**ア　打ち消しの助動詞**	「書か**ぬ**」と言いかえられる。活用語の未然形に付く。

三　助詞・助動詞の識別　（つづき）

番号	――線部	解答	解説（見分け方）
(10)	**ない**	**イ　形容詞**	「何も**ない**」＝「存在しない」という意味を、この語だけで表している。「ある」の反対で、一語で述語になれる。「ぬ」に置きかえられない（「何もぬ」とは言えない）のが決め手。
(11)	**ない**	**ウ　補助形容詞**	「おもしろく」＋「ない」。直前が形容詞の連用形で、**間に「は」を入れられる**（おもしろく**は**ない）のが決め手。
(12)	**で**	**ウ　手段・道具**	「小刀を使って」と言いかえられる。
(13)	**で**	**エ　原因・理由**	「大雨のせいで」と言いかえられる。同じ「で」でも意味が変わる。
(14)	**の**	**カ　主語を表す**	「私**が**生まれた村」と「が」に置きかえられる。置きかえられれば主語を表す「の」。
(15)	**ので**	**イ　接続助詞**	前後の文（節）を**原因・理由**の関係でつないでいる。「から」「のに」「ても」なども接続助詞。

(16)	**な**	**エ　終助詞**	文末にあって、話し手の**気持ち（願い・感動）**を添えている。「よ」「ね」「か」「ぞ」も終助詞。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点

【識別のコツ】

①「**そうだ」は接続する形**で決まる（連用形＝様態／終止形＝伝聞）。②「**ようだ」は「まるで」が入るか**で決まる（入れば比喩／入らなければ推定）。③「**ない」は「ぬ」に置きかえられるか**（置きかえられれば助動詞）、だめなら「**は」を入れられるか**（入れば補助形容詞）、どちらも違えば形容詞。④「**の」は「が」に置きかえられるか**で主語の「の」を見分ける。

四　「故郷」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4 点	**ア**	二十年ぶりの帰郷で、**家を引き払う（人手に渡す）**ための旅であることが設定の土台。語り手は「私」自身で、**一人称の回想**。イの「すべての人物の心の中を説明する」三人称、ウ「ルントウが語り手」、エ「作者の解説」はいずれも誤り。
(2) 3 点	**イ**	一人称では、**見えたものがすべて「私」のフィルターを通る**。だから景色の描写がそのまま心情の描写になる。ア「全員の心の中」は三人称全知の語り方。
(3) 4 点	**（例）荒涼とした風景に、私の寂しく沈んだ心情を重ねて表すため。（28字）**	「**風景（情景）**」（１点）＋「**寂しい・沈んだ・わびしいなどの心情**」（２点）＋「**重ねる・照応させる・暗示する**」（１点）で採点。 「冬だと知らせるため」「季節を説明するため」のように**説明のためだけ**としたものは０点。「～ため。」の形で結んでいないものは－１点。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(4) 4 点	**ウ**	「私」は寂れた故郷に落胆する一方で、**自分の記憶が美化されていたのではないか**とも疑う。この**ゆれ**が重要。ア・イは事実と反する。エは故郷への思いを否定しており誤り。
(5) 3 点	**イ**	少年のルントウは、海辺や畑の知識が豊かで、「私」にとって**外の世界を見せてくれる輝かしい存在**だった。この記憶が明るいからこそ、再会の落差が重くなる。
(6) 4 点	**ウ**	やせ衰えた体や、荒れてかたくなった手は**長年の労働と貧しさ**の跡。昔の明るさやのびやかさを失い、**昔のように対等にふるまえなくなった**姿が表れる。アの「自然のなりゆき」では、貧困という社会的な原因が落ちるので誤り。

四　「故郷」の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(7) 4 点	**（例）思いがけない呼び方に衝撃を受け、二人の隔たりを悲しく思う気持ち。(32字)**	「**衝撃・動揺・ショックを受ける**」（１点）＋「**悲しい・寂しい・やりきれない**」（２点）＋「**隔たり・距離・壁を感じる**」（１点）で採点。 「腹が立つ」「見下されたと怒る」は０点（「私」は**怒っていない**）。「うれしい」「なつかしいだけ」も０点。「～という気持ち。」で結んでいないものは－１点。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(8) 5 点	**（例）身分や暮らしの差が、心を通わせることを妨げ、二人を深く隔てていること。(35字)**	「**身分・境遇・暮らし（経済）の差**」（３点）＋「**心が通わなくなる／隔てられる**」（２点）で採点。 本当の壁があると考えた**具体物としての説明**（例「家の壁が厚い」）は０点。「久しぶりだから照れている」など**一時的な気まずさ**にとどめたものは２点まで。「～こと。」で結んでいないものは－１点。三十～四十字から外れたら－１点。
(9) 3 点	**イ**	ヤンおばさんの行動は、個人の悪さの話ではなく、**貧しさが人の心をすり減らし、人間関係まで荒れさせていく**ことを示す場面。ルントウの変化と同じ根をもつ。
(10) 4 点	**（例）若い世代に、自分たちが経験しなかった新しい生活への希望を託すこと。(33字)**	「**若い世代・子どもたち**」（１点）＋「**自分たちが経験しなかった新しい生活**」（２点）＋「**希望を託す**」（１点）で採点。 「二人が仲よくなって楽しそうだ」のように**場面をなぞっただけ**のものは０点。かつての「私」とルントウの関係が、**次の世代でくり返されるのか／変えられるのか**という問いを含む場面であることをおさえる。「～こと。」で結んでいないものは－１点。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(11) 6 点	**（例）希望も偶像にすぎないと疑いながらも、人が歩けば道は生まれると考え直した。(36字)**	この教材最大の読みどころ。**①希望は自分の手で作った偶像ではないかという疑い**（３点）＋**②それでも、歩く人がふえればそこに道ができるという結論**（３点）の二点で採点。 どちらか一方だけなら３点。「希望をなくしてあきらめた」は０点（**疑いで終わっていない**）。「必ず希望はかなうと確信した」も０点（**疑いをくぐった上での考え直し**であることが大事）。三十～四十字から外れたら－１点。

四　「故郷」の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(12) 6 点	**（例）希望とは、ただ願うだけのものではなく、多くの人が行動を重ねることで初めて現実になるものだと考える。(49字)**	【ルーブリック】 A（６点）…「希望」についての自分の考えが明確で、作品の思索（偶像への疑い／歩く人が道をつくる）とつながっており、四十〜五十字におさまっている。 B（４点）…自分の考えは書けているが、作品とのつながりが弱い、または字数を１〜５字外れている。 C（２点）…感想（例「希望は大切だと思った」）にとどまり、理由や内容の説明がない。 D（０点）…無解答、作品と無関係、または本文の言いかえだけで自分の考えがない。 ※字数を６字以上外れた場合はさらに－１点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ)】

1. この作品は一**人称の回想**。見えている景色はすべて「私」の心を通した景色で、**情景描写＝心情描写**になっている。
2. 冒頭の荒涼とした冬の風景は、**季節の説明ではなく「私」の沈んだ心の前置き**。ここを説明文として読むと（３）を落とす。
3. 故郷の落差を、「私」は**現実への落胆**と**記憶の美化への疑い**の両面で受けとめている。片方だけでは不十分。
4. 少年のルントウは**明るく物知りで、外の世界を見せてくれた存在**。この輝きを押さえないと、再会の場面の重さが出ない。
5. ルントウの変化の原因は**貧しさと苦労という境遇**。「年をとったから」では読みが浅い。
6. 「厚い壁」は**身分・境遇の差が心を隔てること**のたとえ。「私」は**怒っているのではなく、悲しんでいる**。
7. ヤンおばさんの場面は、**貧困による人心の荒廃**を示す。個人の人格の問題として読まないこと。
8. 最後の「希望」は、**疑いをくぐった上での結論**。「偶像ではないか」という疑いと「歩く人が道をつくる」という考え直しを**両方**書くのが（11）の必須条件。